

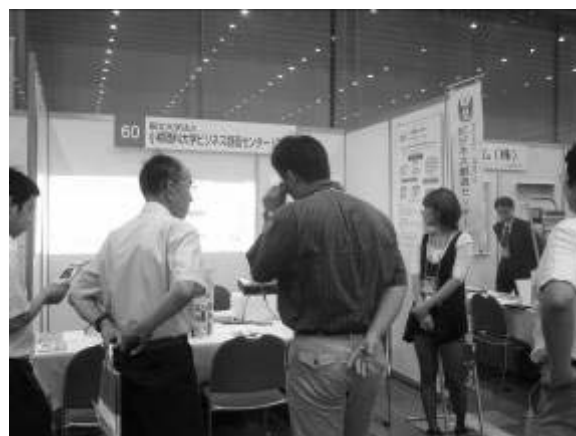
Ⅱ. イベント・セミナー等開催報告

Ⅱ－１. 「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2009」

8月21日（金）「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2009」（於：札幌コンベンションセンター）に出展しました。このフェアは「優れた技術や製品を有する中小企業，大学，支援機関等が一堂に会する場を提供し，販路拡大や企業間連携の促進，情報交換や技術交流等を通じて，北海道のものづくり産業の振興を図る。」（開催概要より）ものです。約140の企業・団体・大学等の出展があり，来場者は約3,000人でした。

ビジネス創造センターでは，リアルな情報をバーチャルで提供する双方向型地域情報サービス i-vacs（近藤ゼミ運営）のほか，ビジネス創造センターの取組みについて紹介しました。

ブースでは近藤研究部主任，海老名センター長，大津副センター長，i-vacs を運営する学生2名らが来場者に説明を行いました。来場者からは，さまざま質問，提言などが寄せられました。



Ⅱ－２. 金融問題シンポジウム・

第5回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会（於：福島）

「金融問題シンポジウム」

平成21年9月12日（土）13：30～17：00 ふくしま中町会館7階大会議室

福島大学・滋賀大学の地域共同研究センターとの共催。

地域の身近な問題を取り上げ，各センターの研究成果を広く紹介するのが目的で，三大学共同によるシンポジウム開催は，昨年の小樽に続き2回目になります。

今回は「地域社会における金融機関の社会的役割について」をテーマとして，講演・パネルディスカッションが行われました。

地元金融機関から 3 名の講師を招き、それぞれ 30 分程度の講演がなされました。豊田猛夫氏（日本銀行福島支店長）は、地元金融機関は金融仲介機能を強化する必要があると述べ、これを受けて北村清士氏（東邦銀行取締役頭取）は、地元金融機関として地域密着型金融を推進し、企業のライフサイクルに応じた支援を重視したいと述べました。

続く黒澤勇氏（福島信用金庫理事長）も、協同組織金融機関として中小企業の金融支援、地域の活性化支援を積極的に行うと述べるなど、業種を超えた地域金融のあり方について問題提起をしました。

パネルディスカッションには、CBC 研究部スタッフである齋藤一朗教授（商学研究科アントレプレナーシップ専攻）がコメンテーターとして参加、伝統的な預貸業務にベースに置きながらも、金融ビジネスモデルを再考する必要があると述べました。さらに、金融問題は人づくりの問題であり、実物経済を支える人材育成が必要であると述べ、会場から活発な意見を引き出すきっかけとなりました。

齋藤教授は最後に、地域金融機関は取引関係を通してコミュニティを結節する位置にある。その意味では、地域経済において人づくりの風土を創り出す先導役を担っているという認識が必要と締めくくり、会場から大きな拍手を受けていました。



第 5 回 3 大学・地域共同研究センター定期情報交換会

平成 21 年 9 月 12 日（土）9：00～12：00 ふくしま中町会館 6 階特別会議室

福島大学・滋賀大学・小樽商科大学の地域共同研究センター相互の情報交換を目的として、各センターが持ち回りで開催しており、今回で 5 回目を数えています。

各センターが最近の活動について発表し、意見交換と情報共有を行うもので、CBC からは副センター長の大津准教授（商学部社会情報学科）が、「地域連携キャリア開発（通称マジプロ）」の取り組みについて発表しました。

学生のキャリア教育の一環ながら、学生が地域で活動することで、これを応援する市民との交流の場が生まれ、地域から協力が得やすくなるなど、地域活性化の好循環が生まれつつあると紹介しました（活動の詳細は今号の別記事を参照のこと）。

他大学からは「学生の移動にかかる経費はどう捻出しているのか？」など、より踏み込んだ内容の質問もあり、この取り組みに関する関心の高さが感じられました。

他にも、滋賀大学産業共同研究センターの野本センター長からは、中小企業向けの出前 MOT 活動について、同センターの山本客員教授からは、地域資源である綿織物を活用した「地域ブランド創出プロジェクト」について、同センターの山崎教授からは、「公共経営イブニングスクール」

「地域活性化プランナーの学び直し塾」について、それぞれ発表がありました。

福島大学地域創造支援センターの丹治副センター長からは、12 金融機関や9 市町村との連携協定や、同センターと生涯学習センターとの統合について、今井地域連携グループリーダーからは、県内に5ヶ所あるサテライトの現状について、それぞれ発表がありました。

両センターの特色ある取り組みは、今後の活動の参考にしたいと考えています。



Ⅱ－3. 商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト成果報告会

ビジネス創造センター（CBC）が活動を支援する「平成21年度商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（マジプロ2009）」の成果報告会が、11月1日（日）に運河プラザ3番庫で開催されました。この報告会は、平成21年度から開講されている本学のキャリア教育科目「地域連携キャリア開発」の最終発表会を兼ねており、ビジネス創造センター主催の平成21年度地域活性化セミナーとの共催でもあります。

会場には、50人程度の市民が集まり、学生の活動を分かりやすく展示したポスターの前で直接学生たちと議論したり、まちなか活性化に取り組んだ3チームそれぞれのテーブルで催されたワークショップに参加して、活発に意見を交えたりする姿が多く見られました。

また当日の参加者には、グランドパーク小樽さまと閑花月堂さまのご協力により、「ホッケのコロッケ」と「豆乳プリン」の試食品が提供され、学生の発案と地域の企業の協力が目に見える具体的なかたちとなり報告会に華を添えました。

今年度のマジプロの成果報告会は、つぎの2つの点で昨年度と大きく異なっています。まず、昨年度のマジプロの参加メンバーが、最初から最後まで報告会の企画・運営を取り仕切ったことです。昨年度のメンバーのうち12名が、報告会だけでなくプロジェクト開始から今年度のメンバーのサポート役となって各チームの活動を支援し、今年の20名の大きな力になっただけでなく、後輩たちのサポートとプロジェクトの運営に携わることで、本事業の趣旨や学生が主役となった地域連携の意義についてより理解が深まったようです。

もう一点は、報告会の進行方法に一方的なプレゼンテーション形式ではなく、市民参加型のポスターセッション／ワークショップ形式を採用したことです。これは、「もっと学生さんと意見交換をしたかった」という昨年の参加者の声を反映させたもので、実際に発表する学生にとっても、当日どんなコメントが飛び出すか分からない緊張感と、学生よりもむしろ熱い市民の本気を感じることができた意義深い企画でした。

日 時： 11月1日（日） 14時～17時（開場13時半）

場 所： 小樽運河プラザ三番庫（色内2-1-20）

参加費等： 無料・事前登録不要・入退場自由

次 第：

（1）「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」実施概要報告

（2）実践課題班によるポスターセッション

・小樽ご当地グルメの開発 ・小樽スイーツの開発 ・小樽物産ネットショップの広報戦略

（3）新規課題（まちなか活性化）班によるワークショップ

・手宮を中心としたフットパスの提案について ・小樽の商店街でのイベント提案について

・小樽への学生移住計画について

（4）試食・デモ

（5）まとめ・意見交換



ワークショップ



ホッケのコロッケ、豆乳プリン試食

Ⅱ-4. ほっけ料理フェア in 雪あかり

2月5日（金）から14日（日）まで「第12回小樽雪あかりの路」に併せて「ほっけ料理フェア in 雪あかり」（主催：ほっけ料理フェア実行委員会）が開催されました。ビジネス創造センターはシーネット小樽機船有限責任事業組合からの受託事業として、実行委員会に参加、事務局機能を担いました。

このフェアは「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」から生まれたご当地グルメ・ホッケのコロッケのアイデアがきっかけで、「小樽の地場産品ほっけを使った料理で、地域経済を活性化させたい」と開催されることとなったものです。

期間中は、市内 14 店舗がオリジナルのほっけ料理を提供。新聞、テレビなどメディアにも多く取り上げられ、好評を博しました。

Ⅱ－５．平成 21 年度

小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会

2 月 26 日（金）、札幌サテライト大講義室にて「平成 21 年度小樽商科大学ビジネス創造センター（CBC）産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は、ユーザーエクスペリエンス研究部門についてと Web 上での地方議員マッチングシステムについての 2 本の報告でした。

出席者は約 30 名で、「ユーザビリティに関する認識が深まった」、「マッチングシステムは自宅でも見てみたい」といった意見が寄せられました。

プログラムは以下のとおりです。

報告会の内容は以下のとおりです。

- 13:00 受付開始
- 13:30 ご挨拶 小樽商科大学ビジネス創造センター長 教授 海老名 誠
- 13:40 第 1 報告 「人間中心設計にもとづく開発プロセスに関する研究」
講師：平沢 尚毅（小樽商科大学社会情報学科教授
／ビジネス創造センターユーザーエクスペリエンス研究部門長）
尾形 慎哉（ビジネス創造センター
ユーザーエクスペリエンス研究部門学術研究員）
- 14:20 質疑応答
- 14:30 （休憩）
- 14:40 第 2 報告 「地方議員マッチングシステムの紹介」
講師：木村 泰知（小樽商科大学社会情報学科准教授
／ビジネス創造センター情報資料部主任）
- 15:20 質疑応答
- 15:30 閉会

「人間中心設計にもとづく開発プロセスに関する研究」

・「人間中心設計」とは、使用者の立場や視点に立って商品等の設計を行うこと。ユーザーエクスペリエンス研究部門でユーザビリティ・ラボなどを活用しながら実際に行われた開発プロセスについて報告が行われました。

「地方議員マッチングシステムの紹介」

・「地方議員マッチングシステム」とは、Web を利用して住民の関心にあわせた地方議会議員の情報を提示するシステムです。小樽市の市議会議事録から抽出された情報を事例にとりながらシステム利用の具体例などが報告されました。



海老名センター長



平沢教授



尾形研究員



木村准教授と大津副センター長